

2020 年度事業活動計画（案）

自：2019 年 12 月 1 日 至：2020 年 11 月 30 日

響きあう BSA のために

BSA 創立 100 周年を迎える

BSA は 2027 年に創立 100 周年を迎える

1883 年シカゴ市で誕生した BSA は、1894 年 C.H.エバンス氏（米国同胞会書記）来日により同胞会の活動が始まり、C.M.カッティング氏、F.A.ウッド氏に受け継がれ「日本聖安得烈同胞会」を組織して日本聖公会の信徒運動を指導してきた。

1904 年以降、日露戦争勃発で教会が社会の流れに巻き込まれ活動が停滞、ウッド氏帰国による指導者の喪失、などがあり BSA に関する資料も残っていない。

20 年程の空白の後、1927 年立教大学に米国 BSA 日本支部が結成され、1931 年日本聖徒アンデレ同胞会が発足した。

BSA が日本に紹介された当初、日本聖徒アンデレ同胞会創立の時と今、周囲の状況も活動実態も大きく変化した。そのような中で 100 周年をどう迎えようとしているか。

BSA の基本理念は「祈禱と奉仕」「一人が一人を」であり、御国拡張を目指す。BSA は教会の働きに信徒が参加する集まりである。

現在の会員数は正会員 192 名、賛助会員 80 名、聖職者会員 74 名を合わせた登録会員は 346 名である。地域別の分布を見ると、東京・横浜両教区に集中し、盛岡、福岡の両支部と各地に散在する個人会員が数人見られる。「BSA は全国区」といいながら、現状は違う、そうっていない。

BSA の裾野を広げ、BSA の“顕在化”をはかる

BSA 活動の広がりと今後の発展を図るためには、会員だけを相手にしては駄目である。とかく BSA 内で完結しがちな活動についても、会員外の人たちに参加を呼びかけ、BSA を知り、馴染んでもらう努力をする。

2019 年度は、BSA を取り巻く環境整備、いわゆる BSA のインフラ整備の年とした。人が生活するためには、道路や電気、水道、ガス、学校、病院、公園などのインフラの整備が必要であるように、BSA においても、まずは知名度と理解度を、点から線、そして面に広げる。これが BSA のインフラ整備である。

BSA 創立 100 周年までに 聖公会のすべての聖職および信徒への働きかけを強化し、BSA の“顕在化”をはかる。

これまで情報伝達手段は VISION のみであった。BSA の活動を広く知って頂くため、「管区事務所だより」や各教区の「教区時報」など VISION 以外の媒体を開拓してきたが、さらに努力を重ねる。聖公会手帳にも BSA の広告を初めて出稿する。BSA と聞けば、それが何であるのかを分かってもらえるようにしたい。

会員一人一人を大事にする運営

一昨年から理事会等の動きを「本部だより」（26 号迄既発行）として支部長に送り、各会員に伝えてもらうことにした。本部と会員との回路が太くなり、そのことが BSA

の一体感につながることを期待している。問題は、個人会員との一体感をどう高めるかである。会員あつての BSA であることを忘れてはならない。

BSA 創立 100 周年への取り組み 「気になる BSA」 を目指す

以上の取り組みを踏まえて、「BSA 創立 100 周年プロジェクト計画基本構想（案）」を今次総会に提起し（第 3 号議案）、2027 年に向けての本格的な初年度とする。基本構想に基づく個別具体的な活動は、出来るだけ各年度の通常の事業活動計画の中で実施する。それによって限られたマンパワーを有効に活用する。また、この機会に既存の事業活動のスクラップ&ビルドを行い、事業活動の効率化と活性化をはかる。

BSA が直面する課題にしっかり向き合い、100 周年を迎える 2027 年には、北から南までお互いの活動が「響きあう BSA」、周囲から見れば最近の BSA はこれまでと違って、「何か気になることをしている」といわれる BSA を目指す。

2020 年度は、これらを基本コンセプトとして、以下のような諸活動を展開していくこととする。

I. キリスト教精神を世に広げる周知・広報活動：

- ①ボランティア活動（会員一人ひとりの日常活動及び支部活動）
- ②機関紙「VISION」、「BSA 叢書」その他出版物の配布

1. 伝道用小冊子「BSA 信徒叢書」の発行・増刷

- ・展示台、信徒叢書各 10 冊を設置する。（現在展示台在庫 3 台）

2. 機関紙 VISION

機関紙 [VISION] の充実

機関紙 VISION は、BSA の日常活動を記録し、周知することによって、会員相互を結ぶとともに、広く世間に対して BSA の存在を知らしめる唯一の広報誌である。

- ・ VISION 169 号 2020 年 1 月発行予定
- ・ VISION 170 号 2020 年 4 月発行予定
- ・ VISION 171 号 2020 年 7 月発行予定
- ・ VISION 172 号 2020 年 10 月発行予定

- ・発行部数・形態：年間 4 回発行。タブロイド版 6 頁を各回 2 千部発行。
- ・編集方針：投稿、本部・支部便りの更なる充実を図る。

特に、会員の紙面参加を奨励し、「会員による、会員のための紙面づくり」を目指す。

- ・配布先：全会員、日本聖公会の全教会、関係学校、医療、養護、諸施設、内外諸団体、本会の協力者に配布。（送付先の見直しを行う）

3. BSA 通信の発行・・・BSA の“見える化”活動

- ・BSA の存在や活動を BSA 会員以外の人々に広く周知し、知っていただく活動を実施。

4. BSA の課題精査・見直し

- ・「特別委員会」を新たに立ち上げ BSA の課題を精査整理し、検討・協議する。協議された内容は理事会に報告する。

5. BSA 案内パンフレット作製、配布。

- ・BSA の理解を得るため、改訂「パンフレット」を作成。

6. ホーム・ページの充実

- ・更なる内容充実。

7. BSA セミナー

- ・第 105 総会議案書原稿：2020 年度 BSA セミナー提案

提案趣旨

幕末から明治にかけて、イギリス、アメリカ、カナダを中心とする外国人宣教師たちによる宣教活動が展開された。

宣教活動は、どういういきさつと使命感のもとで行われたのか。ミッションの違いは、その後の教区や教会の礼拝の仕方、教勢の発展にどう影響したのか。

現在の教区の土台を築いた外国人宣教師たちの熱意と努力を描く。

実施時期： 2020 年 5 月 23 日（土）

会 場： 目白聖公会（東京都新宿区下落合）

テーマ： 来日宣教師群像と教区編成（仮）

講 師： 前・立教学院院長 松平信久氏

主 催： 一般社団法人 日本聖徒アンデレ同胞会（BSA）

後 援： 日本聖公会

参加見込み：90 人（事前申し込み不要）

広 報： 機関紙『VISION』、『管区事務所だより』、東京、横浜、北関東各教区の教区時報、各教会宛のチラシ、これまでの参加者ほか。

セミナーの構成案

- 1 幕末期、キリスト教はどのようにして日本に入って来たか
- 2 外国からの宣教師団の特色、色分け
- 3 彼らはどんな使命を帯びて日本へ来たのか
- 4 宣教師たちは日本人社会にどうやって入っていったのか
- 5 教区ごとのテリトリーはどのようにして決まったのか、ほか

- II. 教育事業： ① キリスト教精神をベースとしたリーダーシップを持つ社会に有為な青少年の育成。
② 研修・交流ツアー等 成人のための啓発事業

1. BSA 青少年キャンプ

- ◇ 開催地を清泉寮とした「こども・青少年キャンプ」へ、KEEP 協会、関連諸団体と協働・支援

・BSA 企画「青少年キャンプ」ならびに「合同こどもキャンプ」支援

・3/30 日（月）－4/1（水）「青少年キャンプ」（第 6 回）

企画内容：キリスト教精神に基づいて、BSA オリジナル・プログラムである指導者訓練キャンプをキープ協会と共催で開催する。

目的：BSA の祈祷と奉仕の精神をもとに、自然体験と共同生活を通して、こども達の感性の自主性、自然と人間の関わり、他者への思いやりや生きる力を育てることを目的とする。

共催：日本聖徒アンデレ同胞会(BSA)・キープ協会(KEEP)

後援：日本聖公会

会場：公益財団法人キープ協会 自然学校

参加者：20 名（BSA スタッフ 7 名・KEEP スタッフ 7 名）

・7/31（金）－8/2（日）「合同こどもキャンプ」（第 9 回）予定

主催：東京教区日曜学校連絡会（SS ネットワーク）

協賛：東京教区信仰と生活委員会、一般社団法人日本聖徒アンデレ同胞会

会場：清里フォレストーズ・キャンプ場

参加者：小学生 35 名（スタッフ 15 名）

前年同様、協賛金 5 万円を支出する。キープ協会に働きかけソフトクリームの応援

2. 立教大学 BSA 支部 支援

3. BSA 研修ツアー

開催期日： 秋 1 泊 2 日予定

- ### III. 社会事業：
- ① 困難な状況にある人々を支援・救済するボランティア活動やチャリティー・コンサート、講演会等の開催
 - ② 公益財団法人キープ協会との協働、

1. 災害被災者への復興支援活動

- ・災害被災者支援のため

地震・噴火・台風・豪雨等による大災害に対し、その被災状況に応じて支援活動を行う。

2. ボランティア活動

- ・支部活動として、また各個会員による実施。

3. 公益財団法人 **KEEP** 協会と協働した活動

◇ 行事・諸活動の企画・実施に当たり、**KEEP** 協会と協働した活動。

- ・青少年キャンプ（教育事業）を共催で開催する。
- ・清里にある施設の利用

IV. その他事業： BSAの目的を達成するため必要な事業

1. 支部との関係強化による一体感の醸成

(1) 「BSA 本部だより」の発行

支部と本部は車の両輪である。2016 年度から始めた「BSA 本部だより」の充実を図り、情報の共有を通じて、支部と本部の意思の疎通と連携を強化していく。

- ・1 年を通じ 理事会の様子などを中心に、必要に応じて発行する。
- ・支部に属さない会員への対応を考え、実施する。

(2) 支部長会議 年 1 回開催する。

本部活動概要報告、支部活動報告、支部の抱える諸課題、本部への要望、等話し合い、分かち合い、理事会へ意見具申する。

(3) 支部との懇談会の実施

本部役員と支部会員との懇談会を継続する。詳細はその都度「VISION」等で周知する。

2. 支部活動の活動支援

- ・支部からの企画提案を受ける。
- ・理事会は、支部体制の確立に向け検討、支援を行う。

3. 支部の増設ならびに会員増強活動

- ・BSA の裾野を広げる活動を会員以外の人たちへ広げる。
- ・BSA の認知度を高める。
- ・BSA 事業の協力者を広め、活動の賛同者を得るよう努める。
- ・BSA 空白教区へ積極的なアプローチ。

4. BSA 創立 100 周年への取り組み

- ・第 105 総会で承認される 創立「100 周年記念事業 基本構想」に基づき、第 1 期事業に掲げた諸事業に着手し、「気になる BSA」その考え方を確認し 2027 年を目指しスタートする。
- ・「BSA 創立 100 周年プロジェクト」活動、理事会へ提言
- ・100 周年記念「ロゴ・マーク」募集をプレ・イベントとして開始した。
1/31 締切で採用を決め、作成・使用開始をおこなう。
- ・アーカイブス 基礎資料の収集（写真・音声・印刷物など）

5. その他

V. 総会、役員会

1. 総会

- ① 第106 決算定時総会 2020年2月22日(土) 予定 於：東京教区会館3階
報告：①2019年度(2018.12.1.～2019.11.30.) 事業報告
議案：①2019年度(2018.12.1.～2019.11.30.) 会計収支・剰余金処分(案)
決議
②役員(理事14名、監事2名)任期満了に伴い 新たに理事14名、
監事2名を選任する件

- ② 第107 総会 2020年11月28日(土) 於：未定
議案：①2021年度(2020.12.1.～2021.11.30.) 事業活動計画(案) 決議
②2021.年度(2020.12.1.～2021.11.30.) 会計収支予算(案) 決議

2. 理事会 毎月定例に開催

3. 評議員会 総会開催時に開催

以上